

2-19 下水汚泥・バイオマス为原料とした乾燥肥料 (アクア・バイオマスセンター北広島)

北海道北広島市

2023年10月時点

下水汚泥

固形

管内

- アクア・バイオマスセンター北広島は、周辺地域の下水汚泥及び生ごみ・し尿・浄化槽汚泥等バイオマスを受け入れ、乾燥汚泥肥料を製造し、全量を農地等利用。

■国内資源の種類 ■肥料の種類・肥料名称 ■取組の経緯・内容・成果（見込み）

下水汚泥、生ごみ、
し尿・浄化槽汚泥

下水汚泥肥料（あしるの
めぐみ）

※「あしる」はアイヌ語で「新しい・始まり」の意

取組の経緯

- ・アクア・バイオマスセンター北広島（旧広島下水終末処理場）では、昭和51年から下水汚泥の脱水ケーキの農地施用を開始するも、含水率が高く取り扱い上の不便性から利用者には不評だったため、昭和54年、汚泥乾燥機を導入。
- ・その後、平成19年、下水処理施設の脱水設備、乾燥設備の更新に合わせ、バイオマス（生ごみ、し尿・浄化槽汚泥）の受入混合施設を下水処理施設に併設。
- ・「既存下水処理施設活用型」の施設として、平成23年度から生ごみ、平成25年度からし尿・浄化槽汚泥の受入れを開始。下水、生ごみ・し尿等の一括処理による汚泥肥料を製造。

取組の内容

- ・乾燥汚泥顆粒状肥料として全量を農地等利用。「北広島市乾燥おでい農地利用組合」組合員の農業者に無償で運搬・提供するほか、「あしるのめぐみ」として一袋9kg詰 100円で北広島市民に年に1度予約販売。

成果

- ・顆粒状の性状のため、農家が所有の既存機械で散布可能。
- ・市の産業廃棄物処理コストの軽減。

■作物

畑作物、牧草等

■主成分の含有量(%)、特徴等

N	P	K
5.5	4.5	0.5未満

- ・CN比6 含水率約18%
- ※令和4年度平均値（現物量換算）

■主たる取組主体と肥料利用までの流れ



■今後の課題・取組

現時点で乾燥汚泥は全量農地等利用出来ているが、今後、農家減少等の影響により、当該肥料の需要量の減少を懸念。



受入生ごみ

